

震災後の教育振興運動 再開の道程

釜石市教育振興運動協議会

東日本大震災による被害

死者 888名、行方不明者 153名

(平成24年8月17日現在)

※参考 平成23年2月末日現在人口 39,996人

最大避難者数 9,883名 (平成23年3月17日)

避難場所 88箇所 (平成23年8月10日解消)

全壊 2,955戸、大規模半壊 395戸、

半壊 302戸、一部損壊 1,048戸

(平成24年6月19日現在)

仮設住宅 66箇所 3,164戸 入居率95%

(平成24年8月31日現在)

所謂みなし仮設 657戸

震災後の釜石市の教育環境

校舎が被災し使えなくなった学校

鵜住居小	→	双葉小、小佐野小
唐丹小	→	平田小
釜石東中	→	釜石中
唐丹中	→	唐丹中体育館

間借り・間貸し双方の学校活動に制限

震災後の釜石市の教育環境

仮設校舎の完成

唐丹小・中	→	平成24年1月
鵜住居小	→	平成24年2月
釜石東中	→	平成24年4月

普通に学校がある喜びをかみしめる。
しかし、学校ができただけという現実も。

震災後の釜石市の教育環境

学区ごとの住宅の被災状況

釜石小	約8割	} スクールバスで通学
鵜住居小	約6割	
唐丹小	約4割	

子ども・親・地域が
学校の遠くでバラバラに住んでいる。
人の住まないところに学校がある不自然さ。

教振をどうやって復活させるか？

実践地区連絡会（24. 3. 21）

- ・地域が崩壊している。
- ・PTA活動すらできていない。
- ・児童生徒の置かれた状況が同じ学区内でも全く違う。市全体となればなおさら。
- ・復興教育という新たな負担
 - 目の前の事実以上の復興教育ってありますか？

教振をどうやって復活させるか？

- ・学校現場はいまだ混乱の最中。
- ・子どもには落ち着いた環境を用意したい。
- ・被災地域は各家庭の復興に手一杯。
- ・「10か年プロジェクト」は大枠そのまま。



また休むのは簡単。理由も十分。
でも休んだだけ再開が大変になる。
震災後の教振のありかたとは？どうする？

教振をどうやって復活させるか？

【結論】

- ・生活環境は10か年P開始時より遙か前に逆戻り、この際「定着と検証」は無視せざるをえない。
- ・スクールバスで学区外から通うのは、肉体的・時間的に相当な負担。
- ・仮設住宅居住者を中心に家庭学習が足りないという課題。

まず生活の実態を明らかにしよう！
実態が見えれば次の展開も見えるはず！

教振をどうやって復活させるか？

【進め方】

事務局主導で実態調査「生活リズムチェック」

ターゲットは「家庭」

- ・主目的は、家庭の生活リズムの「可視化」
- ・実態をアンケート用紙に回答、集約、報告



実態を「見る」ことを
再構築の第一歩と位置付けたい

教振をどうやって復活させるか？

地域・・・再建の最中、まずそちらを優先

学校・・・通常の学校運営優先、児童・生徒を
通じた各家庭へのアプローチのみ依頼

推進委員会（24.6.21）

「事務局案は主導的過ぎる、学校・地域への
配慮が足りない。」（民間出身委員）

→ 推進委員との個別協議、校長会での説明、
各校に事前協議

生活リズムチェック

期間 11月12日(月)～11月18日(日)

対象 市内の全小中学生とその家庭

- ・テレビ、家庭学習、手伝い、睡眠の実態調査
- ・期間中の取り組み、実態を見ての感想をアンケート調査

「可視化」した実態を家庭に残すこと
アンケートは実態調査をしてもらう担保
だったが・・・

ミスの功罪

- ・アンケートのみ提出を徹底できず、実態調査まで提出した家庭が多数。
 - 家庭での「可視化」の継続に至らず。
- ・アンケートにおいて、しっかりした生活リズムが確立している家庭への選択肢を用意せず。
 - 自由記載の増加
肯定的・否定的 両面で記載多数
打って響いたかも？

生活リズムチェックの結果(速報)

【小学生】

対象者 1,697名 / 回答者 1,431名

回収率 84.3%

【中学生】

対象者 947名 / 回答者 823名

回収率 86.9%

生活リズムチェックの結果(速報)

【おおまかな傾向】

- ◆ 家庭内での生活時間中の多くでテレビがついていると想定され、特に3世代同居など家族の多い家庭においてその傾向が強い。
- ◆ 小学校高学年から、家庭内でのテレビ視聴時間が長くなる。
- ◆ 約半数の家庭で、児童生徒がテレビをつけながら勉強している時間がある。

生活リズムチェックの結果(速報)

【結局大人がメディア依存では？】

問1 家庭内でテレビのついている時間は？

(小学生)

(1) 3.3% (2) 13.3% (3) 22.6% (4) 20.9% (5) 38.7%

(中学生)

(1) 5.1% (2) 12.6% (3) 19.6% (4) 16.0% (5) 43.6%

(5) と回答した家庭と、それ以外を比較する

生活リズムチェックの結果(速報)

【結局大人がメディア依存では？】

(小学生)

問2 子どもの家庭学習の時間は？

	0	0~0.5h	0.5h~1h	1h~2h	2h~
問1(5)	0.7%	6.9%	42.1%	37.7%	11.4%
それ以外	1.4%	5.6%	46.1%	39.3%	4.7%

問3 テレビをつけながらの家庭学習時間

	0	0~0.5h	0.5h~1h	1h~2h	2h~
問1(5)	31.8%	24.4%	26.5%	11.0%	5.1%
それ以外	49.8%	24.6%	15.7%	5.6%	1.0%

生活リズムチェックの結果(速報)

【結局大人がメディア依存では？】

(中学生)

問2 子どもの家庭学習の時間は？

	0	0~0.5h	0.5h~1h	1h~2h	2h~3h	3h~
問1(5)	4.5%	6.7%	16.7%	32.9%	30.6%	6.7%
それ以外	2.4%	5.2%	15.5%	39.2%	23.3%	8.4%

問3 テレビをつけながらの家庭学習時間

	0	0~0.5h	0.5h~1h	1h~2h	2h~3h	3h~
問1(5)	25.6%	14.5%	23.4%	19.5%	9.5%	5.8%
それ以外	38.6%	19.0%	15.5%	12.5%	5.0%	1.3%

生活リズムチェックの結果(速報)

【結局大人がメディア依存では？】

(現段階での考察)

- ・テレビと家庭学習を切り離すうえでは、家庭の意識によると思われる差が見られる。
- ・家庭内のテレビ視聴が子どもの「ながら勉強」につながっていると推測される。

今後の方向性

- 「子どもの生活リズム」を引き続き重点課題として継続する。
- 「家庭」で取り組む生活リズムの改善について、具体的な方策を検討する。
- 学調の活用等を通じ、学校教育と社会教育の相互協力体制を深めつつ、成果を検証していく。

ご清聴ありがとうございました。